

平成30年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立輪島高等学校 定時制

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
1 学ぶことの よろこびの 実感 [主担当] 学力向上G	① ICTを利活用 した授業の展開	ICTの利活用により、意欲的に 学習に取り組んだ生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	B (78.8%)	成果：ICT機器を使用した授業に関しては、 概ね効果的に利用できていると判断さ れる結果である。 課題等：授業でICT機器を活用している科目 はまだ限られており、より多くの授業に ICT機器を利用する機会を広げたい。
	② 生徒の興味関心 を高める授業の 展開	授業に主体的に取り組んだ生徒 が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	B (62.5%)	成果：生徒の意識を問うアンケートであるが、 以前よりも高い結果であり、若干の向上 が窺える。 課題等：自己を客観視することがあまり得意で ない生徒も多く、教員の実感とは合致し ない部分もある。引き続き、生徒の興味 を引き出す指導方法を追求したい。
2 社会人基礎 力の向上 [主担当] キャリア教育 G	① 社会人として求 められる挨拶・言 葉遣い指導	人前で挨拶や発表する場面を経 験できた生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	B (60.0%)	成 果： 学校行事や里山里海学習において、 全員が一人一回挨拶や発表する場面を 設定したため経験できた生徒が増え た。 課 題： 全体的に堂々と人前で話せる生徒は 少ないが、経験を重ねながら、社会人 としての言動が身についた生徒を育 てる。 改善策： 時と場に応じた言動ができるように、 長期的な展望を持って、今後も粘り強 く指導を継続していく。

2	社会人基礎力の向上	② 時間の自己管理意識を高める指導	全授業の出席率 80%以上の生徒が A : 70%以上 B : 50%以上 C : 30%以上 D : 30%未満	B (50.0%)	成果 : 欠席の多い生徒は限られており、学級担任が、本人や家庭との連絡を密にして出席を促しているため、欠席が長期にわたる生徒は減少している。 課題 : これまでの出席状況を鑑み、今後、体調不良など様々な理由で、欠席が連続しないようにする。 改善策 : 欠時の多い生徒には、個人面談や保護者への連絡を適時行い、生活面の改善や将来を展望する意識を高めていく。
	[主担当] キャリア教育 G	③ いじめを許さない姿勢の確立	自己有用感が高まるような行事を A : 月1回のペースでできた B : 2月に1回はできた C : 年に数回できた D : できなかった	A	成果 : 総合的な学習の時間や学校行事などを実施しながら、地域の食文化に触れ、地域に貢献し ALT や仲間との関わりをもつことができた。 課題 : 仲間と共感したり、自己存在感を体感したりする場面づくりを心がける。 改善策 : 生徒の興味関心が高まるような、内容を工夫し、系統性のある事前指導の計画をたてる。
3	地域愛の育成	① ふるさと学習への積極的な参加	ふるさとに関する体験学習に積極的に取り組むことができた生徒が A : 90%以上 B : 70%以上 C : 50%以上 D : 50%未満	年度末に評価	成果 : 例年実施してきた、里山里海保全活動、輪島塗教室、地元食材を用いた調理実習を実施した。現在までの出席率は76%である。 課題 : 昨年度(86%)に比べ、生徒の参加率が低下した。また、行事に取り組む姿勢にも個人差が見受けられる。 改善策 : 事前指導を通して、丁寧に根気強く指導しながら、保全活動の価値に対する理解と目的意識を深めさせる。
	[主担当] 地域理解 G	② 協働的に活動する場面の設定	協働的な活動を取り入れた教材を開発できた教員が A : 5名以上 B : 4名 C : 3名 D : 2名以下	年度末に評価	成果等 : 年度当初の会議で、年間を通して全員が、調理実習等の企画、運営を行うこととなった。現在まで、外部講師を招いて5月「酢豚作り」6月「パエリア作り」7月「アメリカ文化を知る」を実施した。今後も様々な企画を考え、継続して活動していきたい。